



本堂天井の花鳥画と芯柱(左)

日本遺産 Japan Heritage

Vol.
5

「国境の島 壱岐・対馬・五島～古代からの架け橋～」 明星院本堂(五島市)

五島最古の寺院といわれる明星院。806年、弘法大師空海が唐からの帰りにこの寺に立ち寄り祈願し、その翌朝、東の空に輝く明けの明星を吉兆と思い、「明星庵」と名付けたのが寺名の由来といわれています。14世紀後半、宇久島から福江島の岐宿に本拠地^{きしき}を移した宇久氏はこの寺を一族の祈願所と定め、その後、宇久氏は小値賀島を除く五島列島を統一し、五島氏と改姓しました。

現在の本堂は1778年に第28代五島家当主・盛運^{もりゆき}が建立したものとされており、ヒノキの芯柱を使用することで重厚感を漂わせます。天井には五島藩の絵師で狩野派の大坪玄能^{げんのう}によって描かれたとされる121枚の花鳥画が張られており、その壮麗さに目を奪われます。

7世紀後半から8世紀初頭に作られたと推定される銅造如来立像^{どうぞうによらいりゅうそう}(国指定重要文化財)など貴重な仏像や仏具も所蔵されており、寺の豊かな歴史を物語っています。



日本遺産とは

地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産(Japan Heritage)」として文化庁が認定するもの



明星院本堂(県指定有形文化財)



銅造如来立像(非公開)

左手が失われているが、元は薬壺^{やくつ}を持った薬師如来像と伝えられており、白鳳仏の特徴である清楚・清新にあふれている

問合せ 県の文化振興課 ☎095-895-2762

日本遺産 国境の島

検索

